評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	3070101518
法人名	社会福祉法人 紀三福社会
事業所名	グループホーム紀三井寺苑
訪問調査日	平成20年 8月 12日
評価確定日	平成20年 9月 8日
評価機関名	特定非営利活動法人 認知症サポートわかやま

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3070101518		
法人名	社会福祉法人 紀三福祉会		
事業所名	グループホーム紀三井寺苑		
所在地	和歌山市紀三井寺617-3 (電話)073-445-7578		
評価機関名	認知症サポート和歌山		
所在地	和歌山市四番丁52 ハラダビル2階		
訪問調査日	平成20年8月12日	評価確定日	平成20年9月8日

【情報提供票より】(20年7月25日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成12年5月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 5 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 7	

(2)建物概要

建物構造	鉄骨平屋造り		
	1 階建て	1 階 ~	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	1,000 円
敷金	有(100,000 円)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 780 円		

(4)利用者の概要(7 月25日現在)

利用者人数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
要介護1	0 名	要介護2	2 名
要介護3	1 名	要介護4	5 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢	平均 76.3 歳	最低 63 歳	最高 84 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	川崎医院 さくらクリニック 青木整形 川崎歯科
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

国道のすぐ傍に立地しているが、騒音が気にならない程度の距離を保って建っており、グループホーム内部及びテラスは落ち着いた雰囲気に包まれている。地域密着サービスのあり方について研鑽を続ける中で、職員の研修を充実させ、入居者がその人らしく過ごせるように本人中心のケアを実践している。また、必要時のスタッフ人数の増強など、同敷地内に隣接する施設との連携に努めている。隣接施設で「ふれあい教室」を開催し子供の安全な居場所として学校にはたらきかけたことをきっかけに徐々にホームへの子供の訪問もある。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>前回改善課題については前向きに取り組まれている。理念には地域への交流が盛り込まれ、職員と同じ食事をとる事については運営者と話し合いができており、まもなく実現する見通しである。また運営推進会議への包括支援センター職員の出席も実現している。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者以下スタッフは自己評価を踏まえて理念に基づき本人を中心に添えたケアを実践している。運営推進会議など地域とのかかわりや市町村との連携・食事については改善途上である。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は2ヶ月に1回開かれ、民生委員、包括職員、入居者家族など地域住民の出席で開かれている。グループホームがどのような場なのか、どのような事がなされているか、ホームの現状を少しずつ周知している段階といえる。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>意見や苦情等は管理者を窓口とし、随時受け付け対応されている。現時点で深刻な苦情・不安等はあがっておらず、その対応の実績はない。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域住民とのふれあいについては、同敷地内の施設で開催される行事への地域からの参加と地域の祭り、学校の運動会への参加で成されているが、日常生活に溶け込む程活発ではなく、地域住民が日常的に気軽に立ち寄ってホーム入居者等とコミュニケーションを取れる機会は少ない</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム内出入りに個々の入居者を尊重する旨の理念に加えて地域密着を旨とした理念を掲げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の朝礼時に職員全員で理念を唱和し、共有を図っている。また職員各位は掲げられている理念にそれぞれ意見を持ち、理解に努め、ケアに活かせるよう努力している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の年間行事に参加したり、ホームの事を知ってもらおうと連合自治会長に挨拶に出向いたりしているが、地域に積極的に溶け込むにはまだ創意工夫の余地はある。		支所連絡所との関係作りを皮切りに自治会をはじめとする各種団体との関係作りに繋げ、付き合いを深めていくなど、挑戦してほしい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	食事時の入居者と職員の食べるものが異なる点については未だ改善されていないが理念の中に「地域」を明記し、運営推進会議の参加メンバーに包括職員を入れるなど、提案された事項について前向きに取り組む姿勢が窺える。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状としては当該グループホームの事を周知する場に止まっているが、運営推進会議は2ヶ月に1回と取り決め、民生委員など地域住民と入居者家族に呼びかけ継続して行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所職員とは手続き関連の連絡以外に行き来する機会がなく、まだその具体策は練られていない。		ホーム職員自らが市役所に出向き、担当者と直接話しあう機会を設けるなどの取り組みが期待される。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	随時の電話連絡や家族面会時での報告、写真の送付に加え、ホーム内行事の案内、年に数回の便り送付で行事、職員の異動等家族等への報告としている。		ホーム内行事は家族等も入居者が行事参加してどのような様子だったか関心が高いと思われる。写真に個々の日々の様子を書き添えたり、入居者の感想を交えた行事後の報告を兼ねた便りを発行するなど、今より一歩前進した取り組みを期待したい。
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者を苦情受付担当とし、家族からの意見・苦情を受け対応している。また、家族等に対し外部の苦情受付機関等の紹介も行い、意見・苦情受付の裾野を幅広いものにしよう努めている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	前回外部評価時から1年の間に職員交代回数は2回であり、その際も結果的に入居者へのダメージはなかった。また異動・離職の際には便りでの報告も成されている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の計画は立てられていないが、日常業務をこなす中で先輩職員が随時指導し、また母体法人が行う介護技術の講習への参加や外部の各種研修にも、正規職員が優先ではあるが、新任・現任を問わず順次参加できる体制が整えられている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会が主催する相互研修に参加し、またそれ以外でも地域の同業者との間で職員を交換して研修をするなど、同業者との交流の機会は前向きに確保されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居希望者については1週間のお試し期間を設け、周囲の環境や職員・他の入居者や食事・入浴といったホームの生活に馴染めるように配慮されている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>入居者の日常生活のケアについて、声かけや介助・見守りなど全て表情に情緒を込めてケアを行っており、情動に沿ったケアを大切にしている姿勢が覗える。気持ちを分かち合える関係に努めている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>アセスメントによる情報収集に加え、家族等からの聞き取りやホームでの日常生活を積み重ねて本人の思い・意向などを拾い上げ、入居者それぞれが叶えられるよう配慮されている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画の立案は職員間で行っている。家族には郵送で介護計画の承認をとっているが、一部は事後承認となっていたり本人を交えた検討が成されていない。</p>		<p>介護計画に全ての関係者の考えをより有効に反映させる為にも、計画立案の段階で本人、家族も参加して話し合い、より良い介護計画の作成に努められる事を期待したい。</p>
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>本人、家族との話し合いが不十分な面もあるが、介護計画の見直しについては月に一度の会議を職員で開き、議論の後に成されている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	隣接している施設との連携による施設内行事への参加、また地域の行事やボランティアの受け入れ、地元児童の随時訪問の受け入れなどの取り組みを行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者のかかりつけ医については本人・家族の希望を尊重し、自由に選んでもらっている。必要に応じて主治医との連携に努め、適切な医療を本人の日常生活のケアに組み入れている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームでの看取りの実績はなく、終末期に対する対応の方針も未設定ではあるが、本人・家族の希望により医療機関と連携を図り終末期対応を行っている方針である。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の日常生活の様々な場面で職員が行う介助・見守り・声かけは、一人ひとりに表情を込めて向き合う姿勢が見られ、個々人の尊厳に対する配慮が感じられる。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れとして全般的には入居者はそれぞれ思い思いに過ごし、それを基本とした日課で入居者本人を中心に支援がなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と職員が協力して食事準備・声かけ・後片付け等を行っている。食事時は職員は入居者とは異なるものを食べており、入居者や外部の者には一体感が乏しく違和感が強く映る。		グループホームの理念そのものに今一度立ち返り、食事が日常生活においてどのような位置づけにありどのような支援が求められるのかを整理し、少なくとも同じものを食べる事の早急な実現を期待したい。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週に3日と定められているが、実質的には本人の希望に合わせ、入居者が入浴を望む時は出来るだけ入浴できるよう配慮が成されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者本人が現在まで歩んできた人生について、アセスメントや日々のケア・家族からの情報提供などを通じて出来るだけ把握・記録し、日常生活の支援に活かされている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎月のように行事が企画され、中でも外食が多い事や、近所への散歩・併設施設への散歩・買い物など、季節と入居者の健康状況を考慮しつつ入居者が戸外に出る機会が用意されている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	昼間ホーム内における施錠は洗濯場・倉庫・職員用トイレのみであり、居室や出入り口・物干し場の裏口も施錠しておらず入居者も行き来が可能な状態にある。施錠に伴う入居者への心理的圧迫の弊害も職員は理解している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災避難訓練はされているが、入居者は参加しておらず、火災以外の災害対策も具体的には成されていない。また地域住民との防災についての話し合い等も未だ成されていない。		地震・津波・台風・大雨洪水など、考えられる様々な災害に対しリスクを認識・分析しそれらに備える必要がある。地域とのつながりを創り事業所の枠を超えた防災対策を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量など入居者一人ひとりの摂取状況について細かく記録が成されており、ケアに当たるスタッフがいつでも本人の状況を確認し得る環境である。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関から入るとすぐに広い共用リビングダイニングになっている。高い天井は一方に流れた屋根の勾配で採光も十分であり、開放感も抜群であるが、グループホームとしてはすっきりし過ぎた空間のように映る。また共用のトイレの開口幅が狭く車椅子がそのまま入れない仕様となっている。		一般家庭では生活に伴って生活用品が程よく雑然と存在し、それが家族空間としての雰囲気を作りだしている。入居者の転倒や迷い・混乱が起きぬよう配慮しケア業務とのバランスを取りつつ、作品掲示や家具調度品の配置など創意工夫を期待したい。
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	全般的にモノが少なく、居室としてはすっきりし過ぎる印象を受けたが、入居者はそれぞれに持ち込みの家具や電化製品を自室に据え置き、居室内はそれぞれに個性が出ている。		